

平成30年12月15日発行 鷹山宇一記念美術館友の会
 〒 039-2501 青森県上北郡七戸町字荒熊内 67-94 七戸町立鷹山宇一記念美術館内
 TEL 0176-62-5858 FAX 0176-62-5860 e-mail info@takayamamuseum.jp http://www.takayamamuseum.jp/



鷹山宇一 「鯛」 1948年 デッサン(コンテ・水彩)

父のふるさとの味

父の米寿の祝いに赤飯をつくった。東京では皮のはじけやすい小豆は「切腹」すると忌み嫌い、皮が硬く少し小粒の「ささげ」を赤飯に使う。灰汁抜きのため二度程茹汁を捨ててから本茹に入る。お玉で「ささげ」をすくい鍋の上から四、五回落としていく。空気にふれた茹汁は酸化してだんだんと濃い紅色となり、「ささげ」を一番力が入らない親指と小指ではさんでやって潰れるほどになったら火を止める。

洗った餅米をその茹汁に一晩浸し、翌朝蒸籠せいろうを使って蒸し上げていく。途中塩気のある打水をしながら二、三度ひっくり返していくと、桜色から紅色、そして濃い小豆色にと餅米の色が変わり、やがてピカピカに光る赤飯ができる。

電気釜の炊きおこわと違って一粒一粒矜持をもってピンと張り詰めている。そこに白ゴマを振り「紅生姜」と「のしいか」の飴炊を入れるのが古くからの風習だ。「のしいか」がない時、同じ黄色の「たくあん」を付ける家もあるが、江戸っ子の祖父母はみつともないと嫌い、ましてやその「たくあん」が三切だと「身が切れる」、縁起でもないと言って怒っていた。武士の文化を受け継いでいる明治の人間には江戸の流儀が色濃く残っていた。

手間暇かけて作った赤飯を父は絶賛し鯛の刺身と共に米寿の誕生祝いを行った。

七戸に来て初めて甘い赤飯を食べ私はカルチャーショックを受けた。砂糖が入った赤飯など誰も信じないと思ったのか、料理のできない母に所望しても無駄だと思ったのか、真相は定かではないが、父は生前一度も甘い赤飯の話をしたことがない。ふるさとの味を沈黙したまま逝ってしまった父のために、私は毎年誕生日に七戸の甘い赤飯を供えている。

館長 鷹山 ひばり

平成30年度研修旅行「軽井沢・小布施・穂高
美術鑑賞の旅」(10月2日〜4日実施)に参加
された会員から一言感想文をお寄せ頂きました
のでご紹介いたします。 I

十和田市 川村ふみ江
美術鑑賞の旅に初めて参加させて
いただきました。一番心痛く残った
のは「無言館」でした。その頃の学
生さん達は戦争の犠牲になり、戦地
に向かいました。遺作となった一人
一人の絵を見て、戦争がなかったら
立派な画家になり、親孝行をしてい
ただろうと思うと、目頭が熱くなり
ました。



軽井沢のレストランで美味しいランチを
頂き、オーナーシェフと記念写真をパチリ

十和田市 菊地章子
軽井沢は若い時に何度か訪れた事

がありましたが、もつと自然豊かな
別荘地帯という感じでしたが、今は
駅のまわりなど少し都会的になり過
ぎた感じがします。でも見晴台から
見た山々は美しく、長野の自然は素
晴らしいと思いました。

ただ、軽井沢千住美術館が休館日
で見られなかったのは、とても残念
でした。

小布施で見た岩松院の天井絵は色
彩があざやかで、とても美しく、長
い年月を経ても美しく保たれている
事は、とても感心しました。

七戸町 工藤敦子
美術館と食と良き天気。巡ったど
こもすばらしかった。

二泊三日のちよūd良い旅を今回
も堪能した。ひとえに事務局の大変
な苦労のおかげであろう。感謝、感
謝です。次回も楽しみに待っています。

七戸町 工藤喜代子
台風一過が去った後の清々しい青
空を見上げながらの美術館巡り。そ
して仲間と大声で笑いながら食べた
美味しい食事！幸せな三日間をあり
がとうございました。次回を楽しみに
しています。



無言館(本館)前で
近くの第2展示館も鑑賞。残念ながら
信濃デッサン館は3月に閉館でした

七戸町 駒嶺ひろ子
見学したかった無言館を見ている
と戦争により命を無くし本当に無念
だったろうと涙が出ました。小布施
の街並みも本当にステキでしたし、
食事も本当に満足しました。ありが
とうございました。

東北町 小林光子
長野市の「すき亭」に掲げられて
いた「楽作便」、すなわち楽しみを
作るの意とか。旅に出る事は、すな
わち良き思い出を作る事である。良
き友と。鷹山宇一記念美術館友の会
研修旅行にびつたり言葉ではない
か。：。思いっきりリンクしてますね。

十和田市 下山恭美子
台風一過のすばらしいお天気にお
恵まれ、友の会の一大事業である国内
研修旅行が無事終了しました。
観て聴いて食べて、その上お買い
物、おしゃべりと、芸術の秋、食欲

の秋を満喫し無事帰路につきました。
参加者全員の感想をご覧になり、
次年度の海外研修旅行への参加意欲
にっなげで欲しいと願っております。

七戸町 田中洋子
今回の研修も見て聞いて触れて食
べて楽しい事をたくさん経験しまし
た。

特に小布施ミュージアム中島千波館
では、彼は今も実在する人物で描き
たいものは現地向いて真剣に向
き合って描くそうです。そのせいか
見る人に迫力や感動が伝わってくる
のだと思います。こういう姿勢は自
分でも学ばなければと思ひ、とても
勉強になりました。またの研修を楽
しみにしています。



安曇野アートラインの標識

七戸町 戸館栄一
今回はいわゆる旧軽のお店を楽し
もうと思ひ、ブラブラと散策して来
ました。翌日、無言館及び第2展示
館、小布施を楽しみ、最終日はちひ
る美術館と碌山美術館を訪問。安曇
野を走るとあちらこちらに美術館が
あり、さらに道路の名称がアートラ
インやスケッチラインと名付けられ
ており、いかにも芸術と風景が融
合してある信州・安曇野に感心し
てきました。何度でも機会を見て訪
れたいと思つた信州の旅でした。

1/20(日)まで開催中 第18回鷹山賞児童作品展

今年も鷹山賞児童作品展が始まりました。

青森県内の小中学生に作品を公募した絵画コンテスト「鷹山賞児童作品展」は今年で第18回目を迎えました。応募総数は50団体から584点。その中から入賞28点、入選88点が選ばれました。

「鷹山賞児童作品展」は鷹山宇一の画業を顕彰するとともに、「子どもたちの感性は風土の中で培われる」との精神の下、新しい時代を担う子どもたちに、制作体験をおして豊かな感性を養い、自由な創造の喜びを体現できることを願って開催しています。

9/27(木)、28(金)審査会

審査会の様子。審査委員長の濱田進先生(二科会評議員)です。県内各地から力作が集まりました。

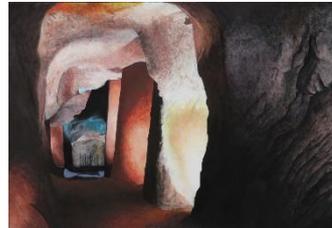


審査委員長 濱田進先生から

今回は平均化した作品が多数出品されていた印象です。当落においては僅差で、後一筆加えていれどと思われる作品が有り残念で仕方ありません。賞に該当する作品には、根気強く隅々まで丁寧に描写されており、中には小学生、中学生の域を超えた、将来期待できる作品も有りました。鷹山賞の精神が脈々と育っていると確信しました。又、これらの作品に共通する「過ぎる」と言う言語に気付かされました。一般言語としては余り良い意味では有りませんが「絵画」の上では大切な言語だと考えます。「描きすぎる」きつとそこから見えてくるものが有ります。「見失っていたものの再発見」次回から挑戦してみてください。



【鷹山賞】「キアゲハ」
大西千晶(野辺地町立野辺地小学校3年)



【鷹山賞】「オリヴィエートを支えた地下は…」豊川己羽来(青森県立三本木附属中学校2年)

11/17(土) 入賞者授賞式

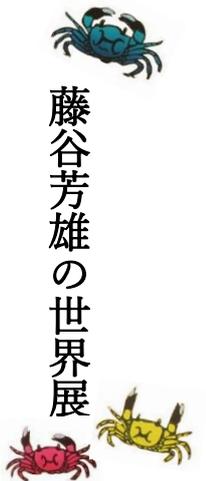
11月17日(土)に「入賞者授賞式」が行われました。栄えある賞に輝いた28名を讃えて行われた授賞式では、多くの来賓、保護者、学校関係者の方々が見守る中、入賞者に賞状と副賞が手渡されました。



皆さん緊張した様子でしたが、自分の名前が呼ばれると、「はい！」と元気よく返事をし、立派に賞状を受け取っていました。受賞された皆さん、本当におめでとうございます。

たくさんのご応募ありがとうございました。来年も素敵な作品に出会えることを楽しみにしております。

藤谷芳雄の世界展



現在鷹山賞児童作品展と併催して開催中の「藤谷芳雄の世界展」。

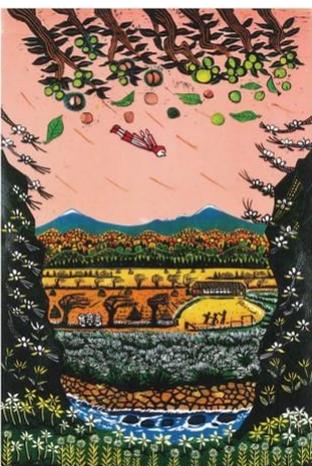
本展では、藤谷先生が宮沢賢治の物語をイメージして制作された作品等、23点を展示しております。中でも、注目していただきたい作品は、今年、日本板画院展で下澤木鉢郎賞を受賞された作品(風の又三郎)です。是非、藤谷先生が創り出す、宮沢賢治の世界をお楽しみください。

藤谷芳雄先生は、日本板画院委員、日本板画院県支部長をされています。美術館では毎年、ワークショップ「木版画で年賀状をつくろう」の講師をお願いしております。(詳しくは5ページをご覧ください)

第68回日本板画院展

【下澤木鉢郎賞】作品

「宮沢賢治のイメージ(風の又三郎)」



遊蝶記



2018年も残すところあと僅かとなり、鷹山宇一

先生を偲ぶ「遊蝶記」も19回目を迎えました。

「遊蝶」は鷹山先生の代名詞的作品名「遊蝶・花」から、「記」は「記憶するの「記」でいつまでも忘れないと願いを持って「遊蝶記」と命名されています。

鷹山先生は、1990年10月25日、画家としての人生を全うし、永眠されました。

湿っぽいのが大の苦手な先生は、家族と一緒に過ごすお誕生日を大変楽しみにしていたといえます。そこで当館では、鷹山先生のお誕生日、12月10日を記念日とし、「遊蝶記」を開催



しております。

今年は、10日が月曜日にあたるため、また、多くの方に鷹山先生の作品に親しんでいたことがとうとう、12月9日の日曜日として終日無料開館致しました。

鷹山先生に思いを馳せながら、ロウソクの炎が揺れるケーキを手に持ち、全員でハッピーバースデーの歌を歌い誕生日をお祝いしました。その後、参加された皆様には今年1年を振り返り、そして新年への抱負をお話頂きました。会は和やかに進み、終始笑顔に包まれていました。一日早いお誕生会となりましたが、鷹山先生もきっと喜んでくれたことでしょう。



↑正午から行われた「遊蝶記」には、友の会会員をはじめとする皆さんにお集まりいただきました。

美術館からのお知らせ

「第18回鷹山賞児童作品展」
「藤谷芳雄の世界展」

1月20日(日)まで開催中

子ども達の作品に、藤谷先生の作品、そして鷹山先生の作品。寒さも吹き飛んでしまうような、心がほかほかと温かくなる展示会となっております。



作品展が来週控えました

11月22日(木)に七戸小学校の2年生と4年生、12月5日(水)6日(木)7日(金)と3日間にかけて七戸城南小学校の全学年の皆さんが作品鑑賞に来てくれました。皆さん、学芸員のお話を真剣に聞いてくれました。お友達同士で、絵を見ながら感想を言い合っている姿もあり、楽し

ありがとうございました。

でもらえたようで大変嬉しかったです。



【今後の予定】

「第78回国際写真サロン展」

2月10日(日)〜3月10日(日)

1927年に始まった国際写真サロン展(朝日新聞社・全日本写真連盟主催)の第78回展です。世界15カ国から出品され、写真表現や画像加工を駆使し、独創性と芸術性に富んだ写真作品を展示します。

今年も一年ありがとうございました。2019年が皆様にとりまして、良き一年となりますよう、心から祈念しております。

「スクラッチで
蝶を描こう」



10月28日(日)は、「スクラッチで蝶を描こう」です。

最近、本屋さんで「スクラッチアート」という本を見かけた事はないでしょうか？黒い面の下に色が隠れており、専用のペンで削るこ

とで、隠れていた色が現れ美しい色の線を描く事ができるという本です。今回のワークショップでは、クレヨンを使った「スクラッチ」を学びます。この技法は子どもたちに体験している方もおられるかもしれませんが、まずいろいろな色を画用紙に塗り、それを指で擦って紙に定着させます。その上から黒をむらなく塗り、指で擦ってクレヨンを均等に定着させます。ここからが本番！今回のテーマ「蝶」を下絵を元に爪楊枝で描くように削っていきます。クレ



ヨンなので、簡単に削れていきます。また削るのが楽しいんです！

身近にあるクレヨンで簡単に楽しむことができ、そのため、「家でチャレンジする」とニコリ。素敵な作品が完成しました。



「木版画で
年賀状をつくろう」

当館では、11月・12月に、地域の中の美術館として、版画文化の継承と子ども達の「生きる力」を育む事を目的とし、毎年、日本版画院青森支部長 藤谷芳雄氏に依頼して、年賀状木版画教室を開催しております。11月24日(土)・12月8日(土)に行った教室の様子を、紹介します。

☆☆年賀状木版画教室【1日目】☆☆



11月25日(土)は「年賀状木版画教室」の1日目です。今年も版画の技法は「彫り進み木版画」です。

※「彫り進み木版画」とは、一版多色木版とは違い、少し彫っては刷り、また彫っては刷ると言うように、一枚の版木で彫り進めながら、刷りを行う版画です。来年の干支は「亥」です。まずは、藤谷先生より「彫り進み木版画」の説明を受けた後版木を裏返して、いざ彫りの練習です！軽快な音が工房に響き渡ります。練習がおわ



つたら、用意した下絵を版木に写し、彫る作業です。藤谷先生より指導を受け、白くする部分や色、始めに彫る場所を相談してから彫る作業に入りました。1日目はここまで。2日目の完成が待ち遠しいです。

☆☆年賀状木版画教室【2日目】☆☆

12月8日(土)は「年賀状木版画教室」の2日目で

今日は仕上げの日です。



皆さん時間内に仕上げる為に作業に没頭中です。彫っては刷り彫っては刷り。版木を彫る音とローラーを転がす音、そして先生を呼ぶ声が工房に響き渡ります。最後に完成した作品を全員で鑑賞しました。この力作は今年も日本版画院の年賀状版画コンクールに応募します。藤谷先生、いつも楽しい教室をありがとうございました。



出前講座へレッツゴー!!



★10月20日土曜日
城南児童館へ出前講座に行ってきました。

今回依頼を受けたのは『デコパージュ』です。親子で1つのバッグを仕上げました。最後にみんなで集合写真を撮りました。



みんな上手にできました!!



今年もありがとうございました。

よいおまじ
お迎え
くんだり



美術館日誌

◆10月◆

▼2日(火)～4日(木)

友の会研修旅行

「軽井沢・小布施・穂高美術鑑賞の旅」

▼5日(金) 藤谷芳雄先生(アートサークル彩)

展覧会出席

▼10日(水) 自動ドア点検(チブコシステム)

階上生きがい中央大学

33名来館

(解説:対馬康夫氏)

十和田市読書会11名来館

▼13日(土)～14日(日)

渡辺貞一展ギャラリートーク出席

(対馬・遠藤/京都「えき美術館」)

二科会会員森岡謙二先生来館

▼14日(日) 七彩会

▼17日(水) 藤谷芳雄先生作品借用

(遠藤・織川/十和田)

▼20日(土) ワークショップ「デコページュ」

(織川/城南児童館)

「宇一が描いた蝶」展

ギャラリートーク

(対馬康夫氏)



▲蝶は1頭、2頭と数えます。対馬研究員の説明に熱心に耳をかたむけていました。

▼21日(日) 七彩会

▼23日(火) カメイ美術館打合せ

(館長・遠藤・成田)

▼27日(土) 「宇一が描いた蝶」展

ギャラリートーク

(対馬康夫氏)

▼27日(土)～28日(日)

東北文化の日(無料解放日)

▼28日(日) ワークショップ

「スクラッチで蝶を描く」

(織川/二階工房)

▼30日(火) 藤谷芳雄先生作品借用

(遠藤・織川/十和田)

◆11月◆

▼3日(土) 毛利悠子展レセプション出席

(遠藤・織川/十和田現美)

▼4日(日) 「宇一が描いた蝶展」最終日

▼6日(火) 鹿内コレクション片付け

▼10日(土) 理事会

▼11日(日) 「戸村春樹展」打合せ

(館長/八戸彩画堂)

▼12日(月)～16日(金)

第18回鷹山賞児童作品展・

藤谷芳雄の世界展展示作業

(青森スタジオ)

▼17日(土) 第18回鷹山賞受賞式



▲左:鷹山賞(小学生の部) 大西 千晶さん
右:鷹山賞(中学生の部) 豊川 己羽来さん

▼18日(日) 第18回鷹山賞児童作品展・

藤谷芳雄の世界展開催



▲藤谷芳雄先生作「よだかの星」

▼18日(日) 七彩会

▼20日(火) 絵馬取材・撮影

(アーリー東北)

▼21日(水) 渡辺貞一作品

京都「えき美術館」より返却

▼22日(木) 七戸小学校2・4年生

鑑賞来館



▲一生懸命、解説を聞く七戸小学校の生徒さん

▼24日(土) ワークショップ

「版画で年賀状を作る」

講師 藤谷 芳雄先生

▼28日(水) JAF青森支部

優待施設連絡会出席

(館長/青森)

▼29日(木) 七戸ロータリークラブ

13名鑑賞来館

七戸養護学校5名来館

◆12月◆

▼2日(日) 二科青森支部展出席

(館長/青森)

▼5日(水)～7日(金)

城南小学校1～6年生鑑賞来館



▲蝶の標本に興味津々!(七戸城南小学校)

▼5日(水) 美術館設計者(故宮内康氏)

妹御夫妻来館(長野県上田市より)

▼7日(金) 懸垂幕打合せ

(生涯学習課・青森スタジオ)

除雪作業打合せ

(道の駅・商工観光課・生涯学習課)

▼9日(日) 第19回遊蝶記

▼10日(月) 青森県私学審議会出席

(館長/県庁)

▼14日(金) 渡辺貞一作品(渡辺家借用分)返却

(対馬・遠藤・織川/青森)

▼16日(日) 七彩会

▼22日(土) 友の会会報第93号発送

▼26日(水) 上北地方工芸部会出席

(対馬(康)・織川)

▼29日(土) 2019年1月2日(水)

年末年始休館

平成30年度研修旅行「軽井沢・小布施・穂高
美術鑑賞の旅」一言感想文 Ⅱ

七戸町 戸館洋子

研修最終日は最初にちひろ美術館を鑑賞。そして昼食は大王わさび農場。まわりの騒音が消え澄み切った鏡のような清流、水車小屋の自然の風景がこんなに素敵なのかと感動すら覚えました。

最後に訪れたのは昭和33年、約30万人の方々の寄附を元に安曇野に開館した碌山美術館。美術館学芸員の浜田卓二さんと二科会の浜田進先生ご一家が歓迎のお出迎え。学芸員の説明、案内のもと、あつという間に時間が過ぎ、美術館スタッフや浜田先生ご家族に見送られて3日間の信州の旅は終わりました。

弘前市 中村昭雄・規和子

他の追隨を許さない感動のツアーは、今回も宿泊、食事、美術館巡りと、その行程は感動の連続であった。身の利く間は共に参加しようと思いを決した二人です。

八戸市 中村富美子

二泊三日の信濃路の美術館巡り。戦争と平和そして健康を強く強く感じ入りながら傘寿を迎えた旅でした。すべて皆様に感謝しながら、これからも前向きに生き抜いて行きたい。ありがとうございます。



ちひろ美術館玄関前で
いわさきちひろ生誕100年「Life展」を鑑賞

十和田市 中谷知子

一番嬉しかったのは、岩松院の天井画や肉筆画など北斎の作品にふれられた事です。機会があったら、もう一度見てみたいなと思いました。それとバスの添乗員さんのやさしい心遣い。コーヒーをごちそうになるなんて初めてです。感謝！

十和田市 浜田玲子

安曇野ちひろ美術館は以前から行きたい美術館の一つであった。友の会の美術館巡りの旅は、行きたいと思っけてもなかなか個人の旅行では足を運べない所でも案内してもらえるのが一つの魅力である。

それに、ご当地グルメや美しい風景を満喫でき、本当に楽しい研修旅行で思い出づくりができました。無言館、小布施ミュージアム中島千波館、高井鴻山記念館、北斎館、ちひろ美術館、碌山美術館など盛りだくさんの美術館を巡る旅、本当にありがとうございます。



小布施・北斎館
北斎の版画の他に北斎が描いた山鉾などが展示されていました。岩松院の天井絵も見事でした。

東北町 原田恵美子

1日目 初めての軽井沢。美智子様へのテニスコート、ブラタモリで見た六本辻のロータリーの辻に立ち、雲場池へ。それから、あちこち観光でした。

2日目 無言館のコンクリートむき出しの建物は石棺を思わせ、壁に大きなクモがスツと動いて、命を思わせ、心重い時間でした。

3日目 ちひろ美術館では絵ハガキをたくさん買い、使うのを楽しみにします。碌山美術館は鷹山宇一記念美術館と親しくして頂いているとの事。また、なごり惜しく手を振って頂き、うれしく思いました。どうとほれ！

十和田市 福田友子

大人二人がようやく手を回せる位の幹の栗の太木が軽井沢プリンスホテルの玄関で私たちを迎えてくれました。又、部屋の周辺は広大な芝生が建物を囲んでおり、その中に点在する木々もどっしりとかの地に根を張った太木で自然のブラインドとして、窓辺近くに枝を差し伸べて林の中で過ごしているような気分になりました。心安らかに朝を過ごす事ができました。



碌山美術館を背景に
開館60周年を迎えた記念展を鑑賞

十和田市 三浦栄子

ちよつぱり不安を抱えながらの参加でしたが、思い切つて参加しました。学芸員の方のお話を聞き、作者の思いと見方を知る事ができて一層楽しめました。無言館の事は本では見ていたが、実物を鑑賞する事で作者の時代を受け入れざるを得ない思いが、ずっしりと切なく伝わってきました。充実した旅行でした。ありがとうございます。

「感動の旅中欧3カ国周遊・美術紀行8日間」

目 程 表

- 1日目** 2019年5月7日(火)
午前東北新幹線で出発→羽田空港着
14:05 羽田空港→～フランクフルトへ 着後、乗り継ぎ
フランクフルト→～ブラハへ [ブラハ泊]
- 2日目** 5月8日(水)
世界遺産 ブラハ歴史地区観光 ブラハ城、カレル橋、
旧市街広場等観光、ミーシャ美術館 [ブラハ泊]
- 3日目** 5月9日(木)
専用バスにてブラハ～世界遺産チェスキー・クルムロフ観光
～ウィーンへ [ウィーン泊]
- 4日目** 5月10日(金)
世界遺産 ウィーン歴史地区観光 王宮ほか [ウィーン泊]
- 5日目** 5月11日(土)
世界遺産 シェーンブルン宮殿インペリアルツアー
美術史博物館鑑賞 [ウィーン泊]
- 6日目** 5月12日(日)
専用車でブタペストへ 世界遺産ブタペスト市内観光
夜:ドナウ川クルーズ [ブタペスト泊]
- 7日目** 5月13日(月)
ブタペスト→～フランクフルトへ 着後、乗り継ぎ
フランクフルト→～東京へ(羽田) [機中泊]
- 8日目** 5月14日(火)
12:15 東京 羽田空港着 めでたく解散



ウィーン・世界遺産シェーンブルン宮殿 (イメージ)



フェルメール 絵画芸術

2019年度の「友の会設立25周年記念事業」として第7回海外研修旅行「感動の旅中欧3カ国周遊・美術紀行8日間」をご案内いたします。中欧各地の世界遺産のほか、クリムト、エゴン・シーレ、フェルメール、ブリュゲル等の充実した作品が楽しめる友の会ならではのオリジナル美術紀行です。

- 旅行代金 353,000円 (羽田空港往復の交通費、燃油サーチャージ、海外空港諸税が別途必要となります。)
- 募集人員 30名(最少催行人員:20名)
- 催行時期 2019年5月7日(火)～14日(火)
- 募集締切 2019年2月28日(木)
- 旅行説明会 2019年4月7日(日)14:00～(予定)
- 問い合わせ・申し込み先 鷹山宇一記念美術館友の会
- 詳細は、別添チラシをご覧ください。
- 申込みはチラシのJTBのほか美術館でも承ります。

新規会員入会お誘いのお願いと 友の会会員登録更新のお願い

平成30年も会員の皆様には、友の会運営に多大なご理解とご協力をいただき、誠に有り難う御座います。
新しい年も友の会では、鷹山宇一記念美術館の応援と会員の皆様に喜んでいただける研修旅行、講演会等を企画し、微力ながら地域文化の発展に寄与していく所存でございます。
なお、更新及び新規入会手続きは、美術館窓口と同封の郵便振替により随時行っております。

○友の会の事業内容

- ①県内外美術館研修視察旅行(年2～3回)
- ②海外美術館研修旅行
- ③美術館作品購入基金への協力
- ④鷹山宇一記念美術館ボランティア協力
- ⑤会報の発行
- ⑥その他(美術講演会の開催等)

○一般会員

年会費 30円
特典 ①無料入館券3枚。会員証提示により入館料2割引

○特別会員

(個人・法人) 年会費 1万円
特典 ①会員証提示により個人・法人会員とも本人及び同伴者1名まで無料入館

○賛助会員

(個人・法人) 年会費 2万円
特典 ①会員証提示により個人・法人会員とも本人及び同伴者3名まで無料入館

◆詳しくは、美術館までお問い合わせ下さい。

◎お知らせ とお願ひ

★会費の納入は随時受け付けておりますが、2019年3月31日迄に新規会員となられた方は2020年3月31日までの会費となります。
新規会員入会のお誘い宜しくお願ひ申し上げます。

編集後記

本年も友の会会員各位より研修旅行記等の投稿を頂き有り難う御座いました。特に鷹山宇一記念美術館研究員の對島康夫氏(日本鱗翅学会会員)より鷹山宇一画伯が描いた「蝶」について専門的な観点から連載して頂き充実した会報をお届け出来ましたことを深く感謝申し上げます。
来たるべき新しい年が素晴らしい一年となりますよう皆様のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。
(照井壽一)